

7人のサムライ、駒ヶ根を駆けける

木村佳司

クラブカップリレー 2006年9月18日 長野県駒ヶ根市

渋谷で走る会が9年ぶりにクラブカップを制した。OLP 兵庫はベテランカップを制した。各走区に応じて地図とコースを使い分けたクラブの総力戦だった。

地図バリエーションのデパート

今年のクラブカップは7走区に4種類の地図範囲と縮尺が用意され、走区に応じて特徴的なコースが設定された。通常のオリエンテーリング区間、トレイルランのような区間、スプリント区間、そして最後はバタフライループを含むエース区間。これでもかというくらい多彩な地図とコースバリエーションが組み込まれた。

その反面、コースレイアウトやルールが複雑になり、よく理解して競技に参加しないとワケが判らなくなりそうという声もあった。

それだけに、各チームとも、走順選択に頭を悩ましたようだ。

渋谷、独走で優勝

レース序盤の混沌から抜け出したのは渋谷で走る会。走順が進むにつれ、じわりじわりとその差を広げてゆく。

いっぽうライバルチームにも圧倒的な速さを持つランナーが居て、渋谷に

あと一歩まで迫るのだが、次が続かない。こうしてメンバー全員が穴の無いレースを展開した渋谷が最後は独走でウイニングランを飾った。王者の貴禄である。

クラブカップ 2006

- 1 渋谷で走る会 A 4:04:26
加賀屋博文 羽鳥和重 坂本貴史
山本英勝 志村直子 篠原岳夫
鹿島田浩二
- 2 とさわ走林会-A 4:15:53
小泉成行 朴峠周子 早瀬悠 千葉妙
宮城島俊太 佐々木良宜 高橋雄哉
- 3 多摩 OL-A 4:16:10
前田裕太 菅原琢 今井直樹
Joerg Vetter 加藤昭次 多田宗弘
円井基史
- 4 OLP 兵庫 A 4:16:33
山本賀彦 片山裕典 諏訪高典
岩倉毅 永田実 石井泰朗 大嶋真謙
- 5 みちの会 A 4:17:26
久野雄介 澤田晴雄 中町和雄
田島利佳 皆川美紀子 吉田勉
高橋善徳
- 6 京葉 OL クラブ A 4:19:17
斎藤和助 早野哲朗 香取伸嘉
小山清 田中徹 大塚友一
櫻本信一郎

しかし、レースが始まるとどうも冴えない。駒ヶ根高原の難しいトレイルに翻弄されたのだろうか。

いっぽう OLP 兵庫はベテランといっても40歳代3名と60歳代1名という布陣。クラブカップの若いメンバーと比べても遜色ないパフォーマンスで、終わってみれば圧勝でベテランカップを制した。

ベテランカップ

- 1 OLP 兵庫 C 2:44:20
橋本裕志 内山孝博 城森博幸
尾上俊雄
- 2 みちの会 C 3:10:17
石井隆 山岸千津子 山岸倫也 山下実
- 3 サン・スーシ B 3:10:41
杉山隆司 佐藤信彦 田代弘幸/雨宮光陽
大場隆夫/尾上秀雄
- 4 東京 OLC-B 3:33:54
西沢敦 天明英之 遠藤光歩
井上幹男
- 5 千葉 OLK-V 3:36:40
大塚校市 鈴木栄一 長友武司/長友美子
長友美子
- 6 京葉 OL クラブ-V 3:45:57
砂川陽子 鈴木健夫 平野良彦
高橋義広

OLP 兵庫ベテランを制す

ベテランクラスは昨年優勝のサン・スーシが必勝体制を組んできた。4走区をルールいっばいの6人で走る作戦だ。誰もがサン・スーシの連覇を予想した。

賑やかな会場

クラブカップの前日に同じ会場で開催された「インカレロング」に参加した大学生の多くがクラブカップにも流れ込んだ。前日の緊迫したレースから一転、仲間とリレーを繋ぎあう学生やOBの笑顔があった。そして社会人クラブと競い合った。

おかげさまで、クラブカップ参加チーム数は2005年の愛知世界選手権の合間に開催した時と同じだけ集まった。2005年は外国人チームもいくつかエントリーしていた。今年は、その時と同じチーム数・・・ということは、国内チームのエントリー数では愛知世界選手権の時よりも増加していることになる。総エントリー数は1100名にのぼった。

学生のオリエンテーリング愛好家は大学卒業とともに競技から遠ざかる人が多い。生涯スポーツとしてオリエンテーリングを続けるには社会人クラブ(地域クラブ)に入ると良いとされているが、なかなかきっかけを作ることができないのが現状だろう。クラブカップ2006の競い合いがその架け橋になれば幸いだ。

(木村佳司)



「渋谷で走る会」のウイニングラン